



創立40周年記念号

今年で協会創立40年を迎えるにあたり、これを記念した賞を設け、次のみなさまが受賞なされました。

♪九州作曲家協会創立40周年特別功労賞…協会活動に長年にわたり功績のあった会員に対して

受賞者…田村徹前会長、田村洋彦元会長、衛藤恵子事務局長、武田真弓会計担当

♪九州作曲家協会特別功労賞…この数年特に顕著な功績を果たした会員に対して

受賞者…原田大志副会長（国際交流における作品演奏で顕著な功績）

熊本陵平国際交流理事（嶺南作曲家協会との長年にわたる橋渡し）

米倉豪志国際交流理事（カナダにて協会初の海外自主公演に尽力）

受賞なされたみなさまには協会より賞状と記念品をお贈りいたしました。そこで今回は、受賞なされたみなさまから、受賞に際しての思いやクラシック音楽に寄せる思いを綴っていただきました。

受賞に際して

田村 洋彦

大した貢献もしておりませんが、今回このような立派な賞を頂き恐縮しています。

思い起こせば、40年前、情熱をもって『音楽の東京一極集中の打破』、そして『地域における音楽文化は如何にあるべきか』等を掲げ、志を同じくする兄や数人の仲間と立ち上がり、大分の湯布院に集いました。それが、「九州作曲家協会」の立ち上げとなり、初代会長は、辛島武雄先生でした。私は、事務局長としてサポートすることとなりました。今でも昨日のこのように思い出します。

湯布院での会の直後より、九州で作品展を開催し、さらに合評会を催すためにも評論家の上野晃先生を毎回招聘し、ご講評頂きました。その講評を糧にして、また次の作品の創作に向けて取り組んだものでした。あの頃が懐かしく、また心が熱くなる思いです。

私は、辛島、野崎、内山、各先生方の後、四代目会長をお引き受けしました。協会の活動も少しばかり国際的な広がりを求め、韓国・中国の作曲家たちとも交流を図り、お互いに作品展を開催しました。現状は、世界情勢を鑑みると厳しい状況ですが、音楽はそれら全てを超越した存在であると信じています。

次に、私の近況についてですが、漸く少しずつ体調も回復してきました。大分では、県内出身の演奏者とともに「和楽器アンサンブル息吹」の音楽監督として活動しております。演奏作品は、全て大分県の民謡を素材とし、様々な音楽ジャンルの形態で編曲したもの、または、日本的な音要素でのオリジナル作品のものを発表しております。まだまだ、作品を発信したいと感じています。

最後に、これからも、この協会が益々発展していく事を願っております。



受賞なされた方々のうち次のみなさまに綴っていただきました。

日本におけるクラシック音楽

田村 徹



日本でクラシック音楽を語るときクラシック音楽とは何か？という定義から始めなければならないもどかしさを感じます。何故なら、小中学校の音楽の先生方々から「リズムって何？ポピュラー音楽って何？クラシック音楽って何？等々生徒の質問の答えに窮することが多々あります。概念的には解っているようでも突っ込んで質問されると解らないことが沢山あります。日本の音楽用語は難しいですね」等と、多少皮肉を含めて語られる場面に多々出くわします。多分そんな時先生方は、自分に内在する音楽の体内感性に訴えて何となく納得しているのが現状ではないでしょうか？

今回のジャーナルに掲載する「現代作曲家としてクラシック音楽に対する思いの一端を述べよ」という原稿依頼を受け、私の考えるクラシック音楽の概念を述べる必要があるのではないかと少なくともクラシック音楽と対をなす言葉としてポピュラー音楽の概念も述べなければならないのだろうか？等々と考えていたら何と気重なことだろう。出来れば私が前回のジャーナルに掲載した「新型コロナウイルスとの戦い」を読み返していただければ幸いです。

参考までに「標準音楽辞典」（音楽の友社刊行）のクラシック音楽の項を掲載します。クラシック音楽とは（１）古典派の音楽。（２）日本ではジャズ・ポピュラーなどに対して、西洋の伝統的な純音楽をこう呼ぶ。したがって年代的な区別は無い。皆さんクラシック音楽って何かお解かり？

明治（1868年）以後西洋音楽を導入して今日まで日本人作曲家によるクラシック音楽が生まれ出てもいいのではないかとこの問いを自分に課し作曲して、今年82歳、なすことの少なさに呆然としています。

（参考）

古典派音楽の代表的作曲家…ハイドン(1732~1809) モーツァルト(1756~1791) ベートーベン(1770~1827) 徳川吉宗・家重・家治・家斉将軍時代の作曲家です。邦楽はどのような状況にあったのでしょうか？井沢修二・明治時代学校教育に西洋楽音楽を導入して（日本の伝統音楽と洋楽を基に新しい国楽をおこす人材養成の必要性を説く）

現代作曲家としてクラシック (=芸術音楽) に対する思い

原田 大志



現在世界中が大混乱に陥っている最中「この先私達が何を成すべきか」を考えない日はないが、振り返って 20 世紀にはどのような傑作が生まれているだろうか。

演奏回数の多さからみると（あえて小曲は除き）《ボレロ》《ピーターと狼》《ウェストサイド物語》を挙げ、独創性の点からみると《グレの歌》《春の祭典》《トゥランガリラ交響曲》を挙げたい。この中でシェーンベルクとメシアンは教育者でもあり、後続した人々がいるのはご承知の通り。しかし《グレの歌》は完成形でこれ以上発展の余地はないと言ってよいだろう。となると気になるのはストラヴィンスキー。小倉朗の著書によれば彼は「バレエ《結婚》を最後にロシア民謡の衣装を脱いでしまった」とある。その後の作品は「ハルサイ」の存在感や内容に全く及ばない。だとすれば彼にとって、否我々にとって「ロシア民謡の衣装」はとても重要な

のではないだろうか、と思う訳である。

そして我々は幸いにも「日本民謡の衣装」を着る事ができる。この可能性を考えない日はない。《ボンオドリーラ交響曲》のような……。



この度は、九州作曲家協会特別功労賞を頂くことになりまして、皆様の厚いご配慮に誠に感謝しております。受賞に値することは何もやっておりませんので大変恐縮しております。誠に有難うございました。さて、古典（＝クラシック）と現代をしばしば結び付けて創作のヒントとすることはあります。例えばフィリップグラスの作品を聴いてスカルラッチェのソナタを思い出し、リゲティの作品を聴いてベートーヴェンに繋げるといった思考は常にあり、現代と古典は実は表裏一体なのではとも思います。デジタルの世の中にこそ逆に古典的手法は映えるのです。

こうした発想の延長線上に、オンライン上での音楽基礎理論や楽曲分析の講座を成立させています。コロナ禍によってデジタルが中心となり、視点を変えれば古典的知識や着想はより多くの使い道が広がったとみています。

我々は何かを失ったのではなく、逆に多くの希望を手に入れたのだと考えています。



皆様に感謝！

衛藤 恵子

この度は立派な表彰状と素敵な記念品を頂き、有難うございました。

私が入会したのは第8回九州現代音楽祭（鹿児島）からです。音楽祭は、もう間もなく40回を迎えるところ

です。事務局長は2000年から皆様に支えられ、多くの経験をさせていただきました。

先日から断捨離を始めていますが、協会との思い出を捨てることはできませんでした。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

受賞に際して

武田 真弓

九州作曲家協会におかれましては創立40年を迎えられますこと、誠にありがとうございます。この度協会創立40周年特別功労賞を私も受賞させていただき、大変光栄に存じます。厚く御礼申し上げます。

本協会会員 田村勝哉氏に師事している私は、自身の作曲や演奏などを深めるため、また九州各地より集まれる作曲家の方々の温かいお人柄と交流にとっても惹かれまして入会させていただいたことは今でも懐かしく思い出されます。

やがて、当時の会長 田村洋彦氏に大変お世話になっておりましたこととお引き受けしました会計ですが、15年もの間続いている次第です。

本協会のますますのご発展を心より祈念いたします。



受賞に際して

米倉 豪志

特別功労賞をいただきましたこと心よりお礼申し上げます。昨年のバンクーバー公演をご評価いただいたものと認識しておりますが、多くの方々のご助力がなければ成立しなかったことをここに記しておきます。

その上で、賞を授与いただきましたことは、私のキャリア形成への協会からの激励と受け止め、積極的に活用させていただくとともに、協会が私のような駆け出しを支援してくれる組織であることを広くアピールしてまいります。



§ 賛助会員募集中 §

九州・沖縄作曲家協会では会の趣旨に賛同し、所定の年会費を納める方（法人もしくは個人）を賛助会員として募集しています。年会費は法人会員一口10,000円、個人会員3,000円です。会員になると本会主催事業へのご招待、機関誌「ジャーナル」の受け取り、法人会員については本会主催事業プログラムに法人名掲載などの特典があります。詳しくは事務局にお問い合わせください。

§ 今後の協会事業のご案内 §

～春のコンサート～「コンポーザーズサミット令和」2021年3月28日(日)17:30開演
和光アカデミーマジョルカホール(福岡市)/全席自由2,000円(当日のみ販売)

(他未定)

九州作曲家協会の考える「演奏会再開の指針」

現在、世界的なコロナ禍のただ中において、芸術家の苦境も例外ではありません。ニューノーマルへの対応として、公演のバーチャル化を試みているが、それは芸術の観点から言えば恒久的で唯一のものではあり得ないことを我々芸術家は知っています。

九州作曲家協会は、これからの演奏会のあり方について、ここにひとつの指針を提示します。この指針が、我々と志を同じくする音楽関係諸団体のみなさまとともに、新しい演奏会開催を模索する機運を高め、音楽家やその他公演を必要とする芸術家たちの一助となることを願います。

またそれが、人々の「どこかに出かけたい」という気持ちや、コミュニティとのつながりを求める心に寄り添うものとなるよう研究を続けることが、我々芸術家団体の責務と考えています。

1. 演奏活動における全体的対策

【演奏会企画及び舞台上での対策】

東京都交響楽団、バイエルン放送管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院等の管楽器の飛沫計測の結果、プロの奏者が正しい奏法で演奏する限りにおいては、楽器そのものからの飛沫はほとんど確認されていないことから、通常の奏者間隔に近いセッティングが可能と考える。

(1) ただし、当面は、舞台上の通気性を十分に考慮したセッティングで始める。(2) 当面は休憩なし1時間程度のプログラムを選定し、客席への入場者数も制限する。(3) 演奏者のマスクは、周囲の人を感染のリスクにさらさない配慮からは装着した方が良いが、演奏に支障がある場合には、周囲への配慮を守ればマスク装着は行わなくても良いこととする。

(4) 楽器、楽譜、譜面台、各種機材、用具等を不特定多数が共用しないよう注意する。(5) 合唱を含む公演については、当面実施しない。

(6) 声楽作品(独唱・独唱と独奏楽器・歌曲アンサンブル等)は演奏可能とし、舞台上ならびに楽屋での発声練習・音出しについては楽器演奏者と同じ扱いとする。

(7) 演奏者(スタッフ)に感染者が出た場合には、保健所及び外部専門家に相談し対応を行った上で、濃厚接触者を自宅待機とし、次の演奏会は感染者・濃厚接触者以外のメンバーで臨む。

【リハーサル、楽屋等での対策】

(1) 舞台と同様、密にならない配慮は必要で、容積の大きさと換気を考慮した上で、主催者が判断する。基本的に、換気が少ない場所での演奏は避ける。

(2) 入室時の検温、手洗い、手指消毒、マスク装着、管楽器の結露水対策など、日常の感染防止習慣を徹底する。

(3) 楽器、楽譜、譜面台、用具等を不特定多数が共用しないよう注意する。

(4) 演奏者が集まるロビーや楽屋、休憩室等の狭い空間では、使用人数の制限、使用時間の制限等、密な状態が生じないように配慮し、使用者はマスク着用の上、お互いに距離を保ち、特に飲食の際には感染のリスクを生じないように十分注意を払う。

2. 演奏者・スタッフの対策

【演奏者の感染予防対策】

(1) 会場入りの際の対策

①検温、記録をする。②マスクを着用し、咳エチケットも実践する。③楽屋口にて、非接触体温計による検温、アルコール消毒液による手指消毒を行う。

④控室・楽屋では、できるだけお互いの距離を保つ。⑤会話はできるだけ控える。

(2) 舞台上での対策

①演奏者は可能な範囲でマスクを着用し、咳エチケットも実践する。②管楽器の奏者は、演奏時に生じる結露水の処理を所定の吸水シートで行い、演奏終了後、自身の手で所定のゴミ袋に廃棄する。③体調に異変を感じた場合は、ただちにスタッフへ申告する。

(3) 休憩時、控室・舞台裏での対策

①控室・楽屋では、マスクを着用する。②控室や楽屋では、できるだけお互いの距離を保つ。③演奏者同士で飲食を共有しない。

④水分補給のための飲料水は持参する。⑤体調に異変を感じた場合は、ただちにスタッフへ申告する。⑥会話はできるだけ控える。

【スタッフの感染予防対策】

(1) 会場入りの際の対策

①当日も検温、記録をする。②マスクを着用し、咳エチケットも実践する。③会場入りしたらまず手洗い、手指の消毒をする。

④控室、楽屋では、できるだけお互いに距離を保つ。

(2) 舞台上のセッティング

①舞台上の椅子や譜面台のセッティング、片付けの際は、できるだけ特定の人が担当し不特定多数が触れないようにする。②舞台上の椅子や譜面台、控室や楽屋の椅子や机は、小まめに消毒する。③セッティング中のスタッフは、マスク、手袋を着用し、こまめにアルコール消毒等を実施する。④楽譜の取扱いは、ライブラリアンが手袋着用の上、行う。

(3) 来場者の対応

①来場者対応を行うスタッフは、マスクを着用し、必要に応じて手袋、フェイスシールド等も用いる。②来場者との社会的距離に注意し、正面に向かい合っている会話は出来る限り避ける。③マスク、手袋、フェイスシールドの着脱時は、顔の周辺に直接触れることの無いよう、注意する。

(4) 公演終了後の対応

①撤収作業は速やかに行う。②控室や楽屋等において使用した机や椅子などはアルコール消毒を行う。

3. 来場者の対策

【来場者への要請事項】

(1) チケット購入者の連絡先は販売時に把握する。

(2) 事前に以下の事項を要請する。

・マスク着用をお願いします(室温が28度以下の場合)。 ・サーモグラフィー等による来場者の検温を実施します。

・こまめな手洗い、手指の消毒をお願いします。 ・来場者同士の間隔確保をお願いします。

・大きな声での会話、館内での飲食はお控えください。(体調維持等のための水分補給を除く)

・次に該当する場合は、来館・入場を控えていただきますようお願いいたします。

①37.5℃以上の発熱がある場合。②咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・臭覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐の症状がある場合。③新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触がある。④過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある。

・来場者から感染者が発生した場合、来場者の氏名・連絡先情報を保健所等の公的機関へ提供する場合があります。

・各公演の内容や、公演会場のガイドライン等によって、内容を追加、変更させていただく場合があります。

【会場での対策】

(1) アルコール消毒液による、手指消毒を実施する。(2) 入場時のチケット半券のもぎりは、来場者自身で行っていただくよう依頼する。

(3) 会場における密を避けるよう誘導する。(4) 原則としてプログラム等配布物の手渡しは行わず、来場者ご自身の手で取っていただくようにする。

【会場施設使用に関する対策】

(1) 舞台上の演奏者から客席最前列までは、感染予防に対応した適切な距離を設ける。(2) 受付デスクには飛沫防止板設置等必要な感染予防対策を施す。

(3) 観客への飲食提供、物販を行う場合は、施設と協議の上、十分な感染予防対策を実施。

本指針は、今後の流行状況及び最新の科学的根拠により、適宜改訂されるものとする。

(2020年7月20日 策定)

「九州・沖縄作曲家協会」は2020年7月1日をもって「九州作曲家協会」に名称変更いたしました。

<九州作曲家協会> <http://kcaj.net/> (「Journal」バックナンバーがPDFで掲載されています)

〒889-1605 宮崎市清武町加納乙 62-62 (衛藤方) / Tel.0985-85-5764 / E-mail etokei@mub.biglobe.ne.jp